

小児声帯結節症例に対する診療の現況

佐藤克郎¹⁾

1) 新潟医療福祉大学 医療技術学部言語聴覚学科

【背景・目的】声帯結節は小児では男児に、成人では教員や保育などの30歳代～40歳代の女性に多く、年齢分布の曲線が2峰性のピークを持つ疾患である。小児例でも成人例でもその原因が声の濫用であることが多く、小児であることや職業上の理由から声の衛生を保つことは困難である。同じ声帯の炎症性腫瘍性疾患である声帯ポリープに対しては、保存的治療が無効なことが多いため喉頭微細手術の適応になる場合が多いが、声帯結節においては再発率の高さや術後の声の衛生の問題から手術適応は限られたものになっているのが現状と思われる。さらに、小児の場合は入院・全身麻酔・手術自体が小児の身体への侵襲となり得るため、さらに手術適応の決定は困難である。

今回われわれは、声帯結節の小児の音声障害例における頻度を検討するとともに、小児声帯結節の手術を選択しなかった場合の自然経過を観察し、小児声帯結節症例に対する診療の現況につき考察する。

【方法】1)小児の音声障害症例における声帯結節の割合

声の症状を訴えて新潟大学医歯学総合病院耳鼻咽喉科音声外来を19年間に受診した小児例234症例のデータから、小児の音声障害に声帯結節が関与する割合を検討し、同時期に同外来を受診した全年齢1,430症例における声帯結節の割合と比較検討した。

2)小児声帯結節の自然経過

新潟大学医歯学総合病院耳鼻咽喉科音声外来を受診した小児声帯結節症例のうち、手術を行わずに6か月以上経過観察をし得た26例につき、その自然経過と年齢の関係につき検討した。

【結果】1)小児の音声障害症例における声帯結節の割合

声の症状を訴えて新潟大学医歯学総合病院耳鼻咽喉科音声外来を受診した15歳以下の小児症例234例のうち、疾患別では声帯結節が62.0%と最も多く、嗄声はあるが喉頭に器質的病変のない音声障害症例が21.8%、ポリープ様声帯と喉頭炎が3.8%と続いた。すなわち、声の症状を訴える小児の6割以上が声帯結節症例であった。また、同時期に同外来を受診した全症例1,430例で最も割合が高かった疾患は18.0%を占めた声帯麻痺であり、声帯ポリープ12.6%、声帯溝症12.0%が続き、声帯結節は4番目の11.7%であった。すなわち、全年齢層においては声帯結節は1割程度に留まっていた。

2)小児声帯結節の自然経過

新潟大学医歯学総合病院耳鼻咽喉科音声外来を受診して声帯結節と診断された15歳以下の小児例のうち、6か月以上経過観察をし得た26例においては、嗄声の出現

時期は平均5歳8か月で、声帯結節の改善傾向は、内視鏡所見では10歳から、聴覚心理的評価(GRBAS尺度)の嗄声度(G)は7歳から、無関位発声時呼気流量率は10歳からみられた。そして、小児声帯結節症例の大部分が変声期前に改善傾向が始まり、変声期を経て軽快または治癒していた。また、軽快または治癒が確認された20例について初診時と最終受診時の嗄声度と無関位発声時呼気流量率の変化を検討したところ、嗄声度は全体に年齢とともに低下し、特に9歳～12歳にかけてその傾向が強く認められたが、呼気流量率には嗄声度のようなはっきりとした傾向はみられなかった。同一症例で連続する2年で検査し得た25例では、嗄声度では7歳以降いずれの年の比較でも次年には改善する傾向がみられ、その傾向は特に9歳～10歳で大きかった。呼気流量率は10歳までは上昇傾向がみられ、10歳～11歳にかけて急速に下降していた。

【考察】新潟大学医歯学総合病院耳鼻咽喉科音声外来のデータにおいては、小児受診症例のうち声帯結節が最も割合が高く6割以上を占め、同時期の成人を含めた全年齢層のデータよりも明らかに高かった。また、手術を行わずに経過観察した小児声帯結節症例においては、大部分で音声機能は自然軽快または治癒しており、内視鏡所見・聴覚心理的評価・呼気流量率で各々特徴的な改善年齢と改善パターンがあることがわかった。

小児声帯結節の治療方針においては、①早期の嗄声軽快、②8割は1回の手術で治癒、③9歳以降は再発率が低下、④言語聴覚士不在の施設の多さ、⑤自然治癒しない症例の存在、などの理由から手術を見直すべきだという見解もあるが、小児の声帯結節に対する積極的な手術に関しては否定的な見解が一般的と思われる。今回の結果からは、小児声帯結節症例に対しては、自然治癒し得る疾患であることを念頭に置いて早期の喉頭微細手術は第1選択とせず、年齢を考慮しつつ変声期以降まで経過観察をするという基本方針は妥当と考えられた。

【結論】小児声帯結節症例の診療においては、基本的には音声機能を年齢ごとに経過観察して変声期以降までは保存的に待機し、手術適応に関しては対象症例の個別的な事情を考慮して検討すべきと思われた。

【文献】

- 1) 佐藤克郎, 山本 裕, 渡辺 順ほか: 当科音声外来における小児受診例の疾患分布と音声機能検査成績の検討—声帯結節症例を中心に—, 日気食会報, 59(4): 388-394, 2008.
- 2) 佐藤克郎, 山本 裕, 渡辺 順ほか: 当科音声外来19年間の疾患分布と青年の音声機能検査成績の検討, 日気食会報, 59(3): 330-337, 2008.
- 3) 早坂 修, 山本 裕, 佐藤克郎ほか: 小児声帯結節の臨床経過, 耳喉頭頸, 77(11): 845-849, 2005.